

エコフイード活用へ 山梨県が 研修会

【やまなし】山梨県は

18日、甲府市にある県自治会館で「やまなしエコフイード利用推進研修会」を開いた。畜産関係者ら約30人が参加した。

(有)環境テクシスの高橋慶社長が「中小規模畜産経営のためのエコフイード給与の現状と課題」と題し講演。食品残さ、食品製造副産物を利用して製造した飼料の活用につ

いて紹介した。

食品残さ、食品製造副産物を利用した飼料のエコフイードは、原料の種類が多岐にわたる。それだけに、使い方によっては品質低下を招きかねないものもあり、適切に使うためには科学的知見が必要。適切な選択・使用で、慣行的な飼料と比較しても優れた効果を発揮する事例も多い。

このため、高橋社長は

飼料安全法などを中心に、給餌の方法や設備の工夫、畜種ごとの供給形態、長所と短所について話した。

県畜産課の伊藤和彦主任は「円安による飼料の高騰や環太平洋連携協定（TPP）交渉参加表明など、経営の厳しさが今後とも予想される。循環型農業としての残さの活用

など、給餌方法や経営改善のヒントとして研修会を役立ててほしい」と話した。

日本農業新聞

2013年3月19日(火)